

安佐南区社会福祉協議会が行う防災・災害ボランティア活動支援チーム 「5K チーム」の紹介とこれまでのあゆみ

安佐南区社協ボランティアグループ

- 主旨・目的
8.20 災害に関する社協の被災者支援活動を継続してサポートすること、災害ボラセンに従事した経験を継承すること、防災知識の普及啓発や万一の発災時に災害ボラセンの運営を支援すること・・・等を目的にした災害時支援ボランティアグループです。(別添趣意書ご参照)
- 8.20 災害の発災以降、災害ボラセン・復興連携センターの運営を裏方で支えた有志により、平成28年8月の安佐南区防災強化月間を機に創設しました。(設立日:平成28年8月20日)
- チームメンバーは、桑田信介キャプテンほか12名です。(平成29年3月末時点)
- 平成28年度の活動は、復興連携センターが行う被災者支援活動の協力を主に、8.20 災害の広報(防災強化月間、避難訓練、区民まつり、視察団受け入れ、講演会などにおける資料展示)、公民館・自治会等における子育て世代・高齢世代の防災講座、災害復旧機材や資材の整備、災害ボラセン支援者の実務手順書の作成などを行ってきました。



- 平成29年3月29日第4回幹事ミーティングにおいて、「災害ボランティアセンター運営支援者の実務手順書(Vo.1)」を編集完了して区社協に提出しました。
これは当会の活動指針ともなるものです。
- 平成29年4月から 8.20 災害関連支援活動が社協通常活動となることを機に、社協登録ボランティア組織として申請を行いました。
- 引き続き、ボランティア連絡会メンバーの皆さまと共に防災・災害ボランティア活動に協力してまいります。

8.20 災害の経験をつなぐ

安佐南区

災害ボランティアセンター

運営支援者の実務手順書

安佐南区災害ボランティアセンター
設置運営マニュアルの実務手引き

8.20 災害の教訓を継承するために

安佐南区社会福祉協議会が行う防災・災害ボランティア活動支援チーム(仮称)

継続的な防災力の向上へ「5K(ごけい・互恵)チーム」創設のご案内

平成26年8月20日の豪雨による土砂災害で安佐南区は甚大な被害を受けました。

犠牲となられた方へのご冥福をお祈りいたします。

避難生活のサポート、住宅や生活環境の応急復旧から地域復興へと行政機関をはじめ区内外から大勢のボランティアの支援をいただきました。

私たち市民は安佐南区社会福祉協議会に設置された災害ボランティアセンターの運営支援や復旧・復興活動を被災地の皆さまと手を携えて精一杯進めてきました。

しかし、被災された方々はもっと迅速に、ボランティアに出向いてくださる方々はもっと効率的にと、沢山のご意見・アドバイスをいただき、多くの教訓とノウハウを積み重ねてきました。

いま街は復興まちづくりビジョンにそって、防災施設の整備とともに行政と市民・企業が認識を共有して、継続的な防災力の向上のために協働して前進しているところです。

この柱のひとつに、災害の教訓を生かした防災・減災まちづくりの展開が掲げられており、教訓の共有・継承、情報発信などの組織体制を整備し、住民自らが的確に行動できることを期待され、安佐南区および学区の社会福祉協議会も積極的に参画しています。

このようなことから、社会福祉協議会が自治会、自主防災会、民生委員等と共に推進する防災・減災活動を、8.20 災害ボランティアの支援を経験した市民として引き続き支援・協力できる組織づくりが必要と考えました。

また、経験の継承、日常の防災活動、そして万一の災害発生時に、迅速・的確に支援活動を展開するためには、より多くの方々に参画いただくことや地域で活躍されているグループと連携することが重要であり、安佐南区社会福祉協議会のボランティアグループとして登録し、地域社会に広く貢献できることをめざすものです。

ボランティア経験の有無を問わず幅広い皆さまのご賛同とご参加をお願い致します。

私たちの目指すもの ～市民の立場で5K(ごけい・互恵・お互いさま)の活動～

- K1 記憶・継承 被災の記憶や復旧支援活動の継承・伝承
- K2 警戒・広報 あらゆる災害への警戒・防災意識の啓発
- K3 教育・訓練 災害VoC*実務手順書や資機材の整備、運営人材の育成や訓練への参加
- K4 交流・交換 防災組織・被災地等との経験交流、ノウハウ交換(他の被災地含む)
- K5 行動・活動 発災時における社会福祉協議会、自治会・自主防災会、行政への協力

*VoC：ボランティアセンター

具体的ご加入にあたっては、本会や災害ボランティアの理解を得ていただけるようセミナー等を開催する予定であり、改めてご案内をいたします。

呼びかけ人代表者

安佐南区社会福祉協議会が行う防災・災害ボランティア活動支援チーム(仮称)

通称「5Kチーム」創設幹事会

キャプテン 桑田 信介

5K チームの組織と活動イメージ図



(補足)

- ◆ セクションの数・名称は仮の設定である。
- ◆ 活動は代表的な項目である。
- ◆ 生活支援チームの日常の被災地支援とは、復興連携センターが行う被災地支援の支援を想定する。
- ◆ 発災時の活動は、災害ボランティアセンターが設置されるまでは避難所または自主防災会単位の支援を、また、センターが設置された後も状況に応じて単位自主防災会のサポートを念頭に置く。(緊急物資仕訳・配送、避難所清掃、ボランティア受付など)
- ◆ 避難所支援は、障害者の誘導・サポート、情報保障補助、乳幼児世帯支援、健康管理、在宅避難者のサポート等を含む。
- ◆ 域外サポートチームは、被災地が情報遮断や輸送路が途絶した場合に、遠隔地の会員によって俯瞰・収集した被災地の状況・情報をもとに必要と思われる支援物資を適材地に一時集積することやプッシュ型支援を想定する。また、被災地内チームに収集情報を伝達努力し、活動のサポートする役割を担う。